

# 白老のNPOサケの自然産卵調査

# ウヨロ川は最適地

## 稚魚年間数百万匹 誕生の可能性 背景に豊かな自然

白老町のウヨロ川におけるサケの自然産卵が道内の河川の中で極めて多く、年間数百万匹の稚魚が生まれている可能性のあることが、町内のNPO法人「ウヨロ環境トラスト」の調査で分かった。同法人はウヨロ川の資源保護を進める貴重なデータとして、今後広く活用を図る考えだ。

調査は日本財団と白老も多い中流部の区間3キロ町の助成を受け、昨年10を対象に、川沿いの産卵12月に実施。ウヨロ川床を数えたところ、18の中でもサケの産卵が最も79カ所を確認した。こ

の数字は、ウヨロ川の3・6倍の流路延長を持つ豊平川(札幌)の約100カ所、同規模の植別川(根室管内)の133カ所、44カ所と比較して、圧倒的に多いことが分かる。さらに、2003年に豊平川で行われた調査では、685カ所の産卵床から生まれるサケの稚魚数を約145万匹と試算。このデータを単純にウヨロ川へ当てはめれば、「年間数百万匹単位の稚魚が産まれる」と考えられる(同法人という。同法人は20日に町総合保健福祉センターで調査結果の報告会を開いた。調査に参加した自然ウオツチングセンター(札幌)の島田明英代表は、ウヨロ川で多数のサケの死骸(しがらみ「ホッチャレ」)が確認され、それが鳥類、哺乳類(ほにゅう)類の餌になっていると報告。ウヨロ川が生態系の物質循環の役割を果たしている点を評価。札幌市豊平川さけ科学館の岡本康寿館

長は、ウヨロ川のサケ保全の方策として、放流や

親サケ捕獲など人の関与を極力受けない「野生サケ」の復活や、サケの観光・教育資源としての価値を高めることなどを提案した。同法人では、今回の調査結果をまとめた冊子を来月中にも制作予定。環境学習や観光などに広く役立てたい考えで「今では珍しい、森とサケの正しい関係が続くウヨロ川の自然の豊かさを知ってもらえれば」と話している。



豊富なサケ資源の存在が確認されたウヨロ川